

「手賀沼魚類・貝類・プランクトン調査」

手賀沼水生生物研究会

鈴木盛智

【2018年10月13日 魚類定量調査及び貝類調査】 天候:曇り一時雨 参加者数:7名 2艘立ての調査

	親水岸		親水沖		根戸新田								菟野谷新田				ピオトープ				Fセンター				岩井新田					
時間	8:10~8:40				9:40~10:10								10:50~11:20				11:40~12:10				12:20~13:20				14:40~15:10					
モンドリ	S:1	R:1	S:1	R:1	S:1	S:2	R:1	R:2	S:3	S:4	R:3	R:4	4	S:3	S:4	R:3	R:4	4	S:3	S:4	R:3	R:4	4	4	3	S:1	S:3	S:4	R:3	R:4
モツゴ	7	8	45	98	6	0	8	11	21		1			53	2	1	8	10	29	2	0	0	3		80	31	5		14	3
スジエビ				6			1				2			2	3	1			1						16	12	15	1	2	6
テナガエビ				2																				5						
タイリクバラタナゴ	1																		4	1	1		1		8					
タモロコ	4			1																										
ブルーギル																														
ハクレン																											1			

※ S=スーパーキラーモンドリ fn-23

R=レギュラーモンドリ fn-33

	親水岸		親水沖		根戸新田								菟野谷新田				ピオトープ				Fセンター				岩井新田			
ガサガサ	ナシ																ナシ				ナシ				ナシ			
モツゴ					○								○															
スジエビ					○																							
テナガエビ					○								○															
ツチフキ					○																							
ヌマチチブ					○								○															
二枚貝調査	ナシ																											
参加者:6名																												
ドブガイ					○								○				○				○				○			

調査内容に2種のモンドリの性能比較を含め、二枚貝の定量調査も行った。魚類はモツゴ、スジエビが他と比較して多かった。タイリクバラタナゴの採捕数は少なくなっている。ハクレン幼魚が多数、手賀沼で初確認。貝類調査では手賀沼大橋西側(上流)では以前と比べ生体がほとんど取れなくなっている。底質については、ヘドロ状であったところの上に砂が積もり、新たな二枚貝の生息場所が確認された。

【2007年~2018年の継続した貝類調査結果まとめ】

手賀沼水生生物研究会 萩原 富治

手賀沼に生息する二枚貝類はカラスガイ、ドブガイ類(カラスガイ、ドブガイ類を総称して手賀沼付近ではタマツケ、渡良瀬遊水地周辺ではカッターケ、霞ヶ浦周辺ではタンカイと呼ばれていました)、イシガイとされていました(芦原,1984 浅間1989)。しかし1990年代以降ほとんど調査は行われていないようです。二枚貝は2007年の調査当初から調査員6-10名による湖内5点、9-15時の船移動による徒手採集調査においてもドブガイ類が5個体程度であり、以前に比べると非常に減ってきている印象があります。イシガイについては2008年に4個体確認されて以降見られません。カラスガイについては、殻は毎回確認されていますが、生体は確認されていません。2018年の調査ではドブガイ類のみ12個体確認されました。したがって手賀沼湖内ではドブガイ類だけが生息している現状です。年に一日だけの調査ですが、調査員6-10名による12年にわたる調査はこれまで行われていませんので、貝類生息数の定量調査を継続したいと思っています。



写真は2018年10月に採集された約24cmのドブガイ類

【手賀沼とその周辺流域の魚類相】

手賀沼水生生物研究会

科名	種名	在来種 外来種	干拓前	導水開始前	導水開始後	手水研調査	確認できる数
			1953	～1998	～2008	2007～2018	
コイ科	コイ	在来種	○	○	○	○	◎ 多い
	ニゴイ	在来種	○	○	○	○	○ 見ることが出来る
	モツゴ	在来種	○	○	○	○	◎
	ゲンゴロウブナ	国内外来種	○	○	○	○	◎
	ギンブナ	在来種	○	○	○	○	◎
	キンブナ	在来種	○	○	○	○	× 未確認
	タモロコ	国内外来種	○	○	○	○	○
	ウチフキ	国内外来種	○	○	○	○	◎
	ワタカ	国内外来種	○	○	○	○	○
	ハクレン	国内外来種	○	○	○	○	○
	オイカワ	在来種	○	○	○	○	○
	ウグイ	在来種	○	○	○	○	○
	スゴモロコ	国内外来種	○	○	○	○	○
	ドコノコ	国内外来種	○	○	○	○	△ 少ない
コイ科 (タナゴの仲間たち)	タイリクバラタナゴ	国外外来種	○	○	○	○	◎ 多い
	ヤリタナゴ	在来種	○	○	○	○	△
	オオタナゴ	特定外来種	○	○	○	○	○
	タナゴ	在来種	○	○	○	○	△
	アカヒレタビラ	在来種	○	○	○	○	△
	カネヒラ	国内外来種	○	○	○	○	△
	ゼニタナゴ	在来種	○	○	○	○	×
	ミヤコタナゴ	在来種	○	○	○	○	×
	ヌマチチブ	在来種	○	○	○	○	◎
	ウキゴリ	在来種	○	○	○	○	○
ハゼ科	ヨシノボリ	在来種	○	○	○	○	○
	(ウロダハゼ)	在来種	○	○	○	○	○
	アシシロハゼ	在来種	○	○	○	○	△ 少ない
	ジュスカケハゼ	在来種	○	○	○	○	× 未確認
サケ科	サケ	在来種	○	○	○	○	○
ウナギ科	ウナギ	在来種	○	○	○	○	○
タウナギ科	タウナギ	国外外来種	○	○	○	○	△
メダカ科	ミナミメダカ	在来種	○	○	○	○	○
カダヤシ科	カダヤシ	特定外来種	○	○	○	○	○
ドジョウ科	ドジョウ	在来種	○	○	○	○	○
	ホトケドジョウ	在来種	○	○	○	○	△
	カマドジョウ	国外外来種	○	○	○	○	△
タイワドジョウ科	カムルチー	国外外来種	○	○	○	○	○
ナマス科	ナマス	在来種	○	○	○	○	△
ギギ科	チヤネルギギ	特定外来種	○	○	○	○	◎
	コウライギギ	特定外来種	○	○	○	○	○
サンフィッシュ科	ギバチ	在来種	○	○	○	○	×
	オオクチバス	特定外来種	○	○	○	○	○
キウキウ科	ブルーギル	特定外来種	○	○	○	○	○
	ワカサギ	国内外来種	○	○	○	○	×
シラウオ科	シラウオ	在来種	○	○	○	○	×
ヤツメウナギ科	カラヤツメ	在来種	○	○	○	○	×
コイ科	ソウギョ	国外外来種	○	○	○	○	×
	ハス	国内外来種	○	○	○	○	△
	キンギョ	国内外来種	○	○	○	○	×
サヨリ科	クルマサヨリ	在来種	○	○	○	○	×
トコノコ科	ベベレイ	国外外来種	○	○	○	○	×
ボラ科	ボラ	在来種	○	○	○	○	○
スズキ科	スズキ	在来種	○	○	○	○	×
コクラクギョ科	チョウセンブナ	国外外来種	○	○	○	○	×

参考資料
 ・深山正巳 1993:淡水化以後の魚の変遷
 ・千葉県内水面水産研究センター
 ・手賀沼親水広場(千葉県環境財団)
 ・我孫子市手賀沼課(手賀沼に暮らす生き物)

※2007年以降の手水研調査には、手賀沼流域・流入河川の調査結果も含むが、それ以前のデータは手賀沼のみのデータである。



ホトケドジョウ



タナゴ



オオタナゴ



コウライギギ

手賀沼水生研究会は2007年から手賀沼と流域・流入河川調査を年1回から2回実施し、手賀沼流域フォーラム企画「手賀沼親子自然観察会」を手賀沼に隣接する用水路で開催してきた。

この表は、千葉県手賀沼親水広場の指定管理者であった千葉県環境財団が作成した表を基に、手賀沼水生生物研究会の調査結果を加えて作成した。「昭和の大干拓」「水質汚濁ワースト1」「北千葉導水による浄化用水注入」の事業等の影響を受け魚類相がどのように変化してきたかが分かる。浄化用水注入後は、かつて手賀沼で生きていた在来種が復活しているが、それを上回る勢いで特定外来種や国外外来種等が多く確認されるようになってきている。